

れないほどきたないと言っていました。世界  
一の大きいごきぶりがたくさんいて、ゆかは  
よごれてむち<sup>ヤ</sup>むち<sup>ヤ</sup>して、寮はビールのに  
おいがしていると言っていました。でも、私  
の住むユニットに行ったらきれいでした。  
そのユニットの人達と話したらほかのユニ  
ットはけっこう思ってたおりにきたないけど  
私達のユニットは週二回きれいにそうじをし  
ているのできれいだと思います。私のユニ  
ットはきれいで、ユニットの人達もやさしく  
てすごくうれしかったです。

私は初めて国際交流財団でほかの県費留学  
生達を見た時、今ほど親しくなるとはよそう  
出来なかったです。でも、みんなすぐなかよ  
くなくて、本当によかったです。この十ヶ月  
をふりかえると、私達はいろいろなことがあ  
りました。みんなであちこち遊びに行ったり、  
いろいろな活動をしたり、いっしょに勉強し  
たり、ユンタクしたりしてよく時間をすごし  
たので、私達はすごく親しくなりました。ま

ただ単に日本あるいは沖縄の文化とか日本語の勉強をけではなく、みんなの国の文化や習慣についても勉強することが出来ました。

私は沖縄にいらる間にいろいろなことを経験しました。そのために、独立した生活が出来るようになった。日本語も上手になり、私のふるさとである沖縄にもっとふれることが出来る。これから何をやるかということがは、きり分かってきました。

この一年間いろいろなことを経験して、たくさんいい思い出をつけたことと、何よりもたくさんいい友達をつけたことを、決して忘れないでしょう。

県費留学生として

ポリビア 大城美香

沖縄県に留学が決まった時、一年間家族とはなれ遠い国でうまくやっていけるのだろうかという不安でいっぱいでした。でもいざ沖縄に来てみると予想以上になじみやすく、住みやすいところなのでそれほど苦労はしませんでした。私の両親は沖縄生まれなので家では沖縄料理はもちろんお盆やお正月などもありかわりません。しかしたまにはポリビアの食事や大好きな肉料理（キウラスコ）が食べたい。又妹達や友人が恋しくなる事もありました。

そんな生活の中で私はこれまでにない大きなものを得たといえるでしょう。それは留学はもろろん、世界各国の人と友達になれたことです。タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、台湾、大韓民国、日本、アルゼンチン、ブラジル、ペルー、メキシコ、カナダ、ハワイ、こんなにたくさんの方の国の人と一

度に友達になれるチャンスはめったにないと思えます。各国の代表ともいえる友達を通してその国の言葉や文化などに少しふれることができました。

私達は家族とはなれ、ちがう文化の中でホームシックや言葉の面で困った事が色々ありました。そんな時はお互い助け合ったりジョークをとぼすなどして少しでも相手の気持ちをかえるくしようと助けあってきました。勉強でもわからない事があると聞いたリ、教

えてもらったりしてきました。特に日本人の友達（琉大生）と過ごす時間は何でも勉強にたりました。そして沖縄の事を知らない私達を観光に連れて行ってくれたり、ドライブにもさそってくれました。本当にみんなあたたかい人達です。特にタイのジュリーやアザジルのミリアンとはご飯を一緒にしたり、悩み事を相談するなど姉妹みたいに過ごしてきました。また、イデとは生花の教室に通っていています。このように一人一人とたくさんのお話しが

がありますが、どれも忘れる事のない大切な  
思い出となるでしょう。

又、県費留学生や研修生の他にも色々な国  
の人と友達になることができました。インド  
バンガラデッシュ、オーストラリア、中国  
ギネア、他にも色々ありますが、全部あげる  
ときりがないので、各国の人を通してその  
国の文化を知り、自分の視野を広げる事がで  
きたと思います。

神繩に来てバスの乗り方さえ知らなかった  
私達でした。が、今ではすっかり慣れてバスを  
利用してどこへでも行けるようになりました。  
しかし神繩での生活にもやっと慣れてきたと  
ころ一年間の留学期間が終わってしまふのは  
とても残念です。ニヶ月後にはみんなにサヨ  
ナラして国に帰ると思うと家族に会えるとい  
ううれしい気持ちと、みんなと別れなければ  
いけない悲しい気持ちと、複雑な気持ちにな  
ります。でも私はその友達の絆をいつまでも  
大切にしたいです。これをチャンスにそれを

れの国と交流を深められたらなによりです。  
最後に私達に沖縄での留学のチャンスを与  
えてくれました。国際交流財団をはじめ、琉球  
大学、多くの関係者、本当にありがとうございます。  
間、成人ということもあって精神的に大きく  
成長したと思います。

また留学生の皆さん、この一年間学んだこ  
とを無駄にしないうようにして下さい。そして

「九三年度 県費留学生」をいつまでも忘れ

ず  
に  
：

私が見た沖繩

仲宗根 クラウディオ エルネスト

私は一九九三年の四月にアルゼンチンから琉球大学で日本語の勉強をするために来ました。

私は三世ですから、家族から故郷の写真を見たたり、話を聞いたりして来ました。それが、小さい時、「いつかその遠い所へ行こう」と思いました。

沖繩に来て、最初にその所へ行ってみました。海や山や村を見て、話と写真を思い出し、すごい信じられない気もちとうれしい気もちを感じました。祖先が、私に「めんそーれ。」と言ったような気がしました。

現在の事をあまり聞かなかったのが沖繩で初めて新しい事を見ました。

例えば、沖繩を回ると、あっちこっちにお墓が散らばっているのを見て、とてとおどろ

きました。沖縄では七くなつた人の魂をおが  
 むために、色々な行事を行ないます。その一  
 つは清明祭です。家族たちが祖先に会うため  
 にお墓の前で食事をしているのを見ました。  
 他方日本には多くの二十四時間のスパーヤ  
 自動販売機やパチンコなどがあります。私の  
 国ではそれはほとんど見られません。どう一  
 つは日本では店員さんが皆大きな声で「いら  
 っしゃいませ」と言ってお客さんを迎えます  
 この事は日本に来た外国人が皆びっくりする

事だと思えます。  
 日本のお客さんに対しこの待遇は、世界中  
 では特別と言えます。そして消費者に物を売  
 るための品物一つ一つきれいに包装されていま  
 す。それに、初めて食堂に入った時にまんが  
 が並んでいましたから「信じられない」と思  
 いました。若い人と大人と食べながらまんが  
 を読んでいました。皆、まんがにおちゅうに  
 なつてほとんど互いに会話をしていませんで  
 した。それは私の国の習慣の中には食事をし



ながら本を読む事は行儀が悪い事と考えられて  
います。

アルゼンチンは日本から一番遠くに離れて  
いる国です。日本の反対側にあると言えます。  
時差がちょうど十二時間以上とあります。そ  
のため、さしと日本で昼だったら、アルゼ  
ンチンでは夜です。その事をさっかけとして  
日本の物を比べたら、何と逆になつた点を  
みつける事が出きます。

例えば、季節に関してアルゼンチンは南

半球にあるために三月から五月まで春でそし  
て十二月から三月まで夏です。又、アルゼン  
チンの北にある地方が暑く、南の方は南極に  
近づいてるために寒いです。だから沖縄に来  
た時、アルゼンチンでは夏がおわつて秋がは  
いまつていたのに、ここに来て春になつたの  
で暖かい天候が続いたんです。そして、沖縄  
の天気は冬とあまり寒くないと感じました。  
日本では私の国と車が反対です。バスに乗  
る時とアルゼンチンでは乗車する時に運賃

を払わなければなりません。

ゴミは、まてる時燃えるゴミと燃えないゴミを分けるので、最初は面倒くさいと思います。同じふくろに入れます。

大学では、日本語の授業で色々な国の学生といっしょに勉強をしました。南米習慣はだいたい同じですが、よく分かります。アジアの国の事はあまり知りませんでした。エセタイ、マレーシア、インドネシア、シンガポールの習慣や言語について、色々な話をしました。

おんがしの沖縄は色々なアジアの国から強いえいさようを受けていると知りませんでした。本土と比べたら、歴史や文化や習慣がまったく違います。そんな事は首里城、琉球の風、その他で分かりました。だからとておとしろいと思いません。

最後に、沖縄で日本語の勉強をして、色々な経験をして、多くの日本人や外国人と友だ

ちになつた事をけつして忘れません。そして  
これはとこそ貴重な事でありからこつぱい  
にさ、沖縄の事を伝え、日本の本当の姿を  
知つてほしいと思ひます。

「<sup>ベス</sup>驚ぬ鳥<sup>トイ</sup>」

ブラジル

阿波根ミリアン

平成五年、四月九日やっと成田空港に着いて「日本だ」と感じながら「どうしよう」の悩みも沢山ありました。けれども沖縄についてそれぞれの国の留学生と会って「皆いっしょだ」と安心しました。あれから約一年間がすぎたなど、とても思えないような気がしています。沖縄で勉強するのは一つの私の夢でした。もう一つは国際交流をすること。私は日系人だから日本語を話せると思われませんが、東南アジアの方々が上手で、とても感心しました。ブラジルに住んでいる日系人は今でも、大人から子供まで沖縄方言を話します。ので、私も小さい頃から日本語と「ウチナーゲチ」になれ、それで方言と標準語を間違っ

て使ってしまうことか結構多いです。例えば「ごきぶり」という言葉はいつも「トビラ」

とずつとおもっていたが、ここに来てから初めて「ごきぶり」と聞きました。もう一つは寮の友達に「チュウカ」はどこにありますかと尋ねたら、「沖繩ではかまわないが本土の人は通じないよ、本当は『ヤカン』というよ。そして沖繩方言に興味があつて研究を始めました。」日本語概説の授業で先生が沖繩の人々の話し方を分析したら、方言の影響が少しあると説明しました。例えば「上等」という言葉、本当は「すぐれている」という意味で使うが、沖繩の人は何でも「上等」と使います。

私は日系二世として子供時代に自分は日本人かブラジル人かととても悩みました。両親は日本語を習うようにいわれました。それでブラジルにいたのにどうして日本語を学ばなければならぬかと思いました。そうして日本語学校に始め通つて、楽しくて、だんだん日本語に興味をそそつて、今でも日本語の勉強を続けています。私はブラジル人に沖繩人

の気持ちを持っていきます。沖繩にきて、ただこの一年間で色々な経験や言語と文化などの問題があつて、両親がどういう苦勞をしたのか少しわかつてきました。移民者は自分の国をはなれ、全然違つた国で頑張つて成功して本当にすばらしいと思ひました。

幼い頃から、ブラジルで何回もお祝いや運動会などで琉舞をみて「おもしろくないな」と思つていました。それに同じ県費留学生の友達の招待で琉大の八重山芸能研究クラブを

見学すると、若い人々が笑顔で踊つていたので、私は思つたよりすごく感動して、そのクラブに入りました。そうして「鷺ぬ鳥」の練習を始めました。私にとってその踊りだけでも覚えるのはとても難しかったです。なぜならリズムにあわせらなくて先輩方も厳しかったので、そのサークルをやめたい気持ちになつた時もありました。だけど、いくら厳しくても苦しいこともあつても皆いっしょだ。だから楽しかったです。それで鷺のようにな

かし、だんだん上達しました。ブラジルへ帰っても琉舞を続けて、三味線の音を聞いたら、すぐ八重芸のこともなつかしく思い出すでしょう。

この一年間は初めてこういう長い時間を家からはなれ、悲しいことや、苦しいこと、楽しいこと、嬉しかったこと、色々ありました。が、多くの人々と出会って、親戚から、クラブや、寮、大学の友達、同じ県費留学生の人々までその人間関係のことは私にとって非常に大切だと思いました。来る前に比べて今の私は驚のようによびたいて成長したと思います。す。この一年間は最高の思い出です。

最後に、お世話になった国際交流財団の皆様をはじめ、保証人、担当教師、ブラジルの沖縄県人会、チャーター、友達の皆様に一年の間のことを心より感謝申し上げます。

思い出に残る1993年

佐辺 亜沙美

ブラジル

海外旅行と一人暮らしの経験のなかった私には、日本で留学することが決った時は、大喜びでした。でも時間が少し経って、私は日本に本当に一年間住むことができるかどうかを考えていました。このような不安の中で、去年の四月に日本に来ました。

沖縄下の生活には、思っていたより早く慣

れました。親戚の人達は、私を家族と同様に扱ってくれました。友達もすぐ下さったので、楽しいことばかりでした。すでにブラジルで社会人だった私は、また学生時代に戻れることが特にうれしいことでした。大学下は、先生や友達はいつても親しくしてくれました。私の日本語は不十分だったけれど、理解できなかったところはゆっくり説明してもらいました。

最初の頃、専門の講義はほとんど理解でき



なかつた状態でした。しかし勉強を始めるとつれて専門用語も読めるようになりました。さらに、先生がおっしゃっていることも理解できらうになつて、授業も面白くなりました。

大学の休みの間に、東京下日系人留学生の研修会に参加し、ついでに東京見物もしました。東京は面白い所もあるけれど、どこに行つても人が大勢でした。だから人を見るだけでも疲れました。東京は都会下サンパウロに似ています。下すから沖縄の生活に慣れてしまつたの下、また元の都会暮らしに戻ることはむずかしいと思います。

日本に来てからは、いろいろ新しい経験がありました。日本とブラジルの良い所と悪い所を比較することもできました。

沖縄で会つたある知人は日系人について研究していました。その人と話して、日系人は実際に本当の国のない人と言われました。そのことは、悪い意味下はないと思つたけれど

自分は悲しく感じました。なぜならブラジルでは日本人と呼ばれているけれど、日本ではブラジル人です。私は地元の人から見たら、日本人の古い考え方を持っていると言われます。しかしながら、ここに来てやはりどこかでブラジルの育ちの影響が出てきます。縄で生活し始めて、食べ物と習慣すぐに慣れたの下、自分もびっくりしました。私はブラジルで生まれ育ったけれど日本的な環境で育てられていたと初めて分かりました。

これからは、日系人は本当の国のない人より、二つの国のある人と言われるほうがいいと思います。日本はブラジルからは一番遠い国です、けれども、私には日本は外国下一番近い国でした。それは親が日本の文化と言語を守って、私達に伝えてきたからです。私も沖縄で学んだ日本の文化を持って帰ります。どんなにブラジルの人と呼ばれても、外見や習慣はまだ日本に近いです。ですから自分の起源を忘れずに帰国しても、日本語の勉強は

続けて行きたいと思えます。この一年間は本  
当に大切でした。大嫌いな夏も好きになりました。  
私の考え方がどこが変わったのは、ブラ  
ジルに帰ってからです。分かりません。

最後に、県庁の国際交流財団の皆様、ブラ  
ジル沖縄県人会、親戚、琉球大学の先生方、  
それから友達とチューター、この一年の間、  
大変お世話になり、心から感謝申し上げます。  
どうもありがとうございました。

沖縄での私の生活

又ニエス 仲村 イルマ

まず初めに、沖縄で日本語と日本の文化を学習する機会を与えてくださった沖縄県庁、そしてメキシコの沖縄県人会の皆様へ、心から感謝しています。

私は三世で、祖父と祖母は名護市に生まれ、彼らはそこでさとうきび工場を持っていました。しかし、問題が起こって、うま

くいなくなつたので、考えたすえ新しいチャンスを捜しにメキシコへ渡りました。そして私の母はメキシコで生まれました。母が十才の時に祖母が亡くなりました。だから、母は彼女の両親から日本語や沖縄の文化をほとんど教えられていませんでした。だから私も水ろについて何も知りませんでした。

沖縄に着いた時、私はうれしくなりました。しかし、同時に沖縄に戻ることを夢見て、メキシコで亡くなった祖父母のことを思うと、

少し悲しくなりました。

ごも沖繩に着いて、間もなくたくさんの親せきに会いました。彼らは私にとっても親切にしてくれました。親せきたちと一緒に沖繩の色々な所を見に行きました。祖父の生まれたる所も見ました。最初、私は少ししか日本語が分からなかったのですが、コミュニケーションが少し大変だったけど、今は前に比べて、だいたいできるようになりました。私はこの親せきのみなさんから沖繩の文化、習慣についていろいろ習っているところです。

沖繩に来て次に親しくなったのが、寮の仲間です。初め、私は「どんな人達かな」と不安でしたが、だんだん慣れできて、今ではいい友達になりました。彼女達には、時々宿題を手伝ってもらっています。

一番最初の授業は先生の日本語を聞き取るのが難しかったけど、今ではもう慣れました。授業では色々な国の友達に出会いました。私の母国語スペイン語を話す人にも会いました。

だから、あまり淋しくないです。この人達も色々な国から来たので、その国々の習慣と心情を習っていきます。クラスの友達と色々な所へ遊びに行きます。日本語の先生もカラオケと一緒に行ったことがあります。テープレコーダやビデオ、イラストなどの教材で授業をするので、楽しいです。

今までもたくさん日本語を習って、日常会話は大抵話せるようになったけど、自分の考えや気持ちをごまかく表現する事はまだ難しいです。でも聞く事はだいぶできるよようになりました。だから、日本語の先生達に心から感謝してきます。

私は日本の文化や心を知りたいのが八重山芸能研究クラブ八重芸に入りました。クラブの人達から日本の心を色々教えてもらっていました。私が八重芸に入って最初の発表会は波照間島で行われました。そこで、一週間練習しました。朝から夜までみんな一生けん命がんばっていました。先輩達は、一年生達に

中途半端でなく、しっかり踊水のように厳しく指導しました。この一週間は、大変暑かったです。ちよつと大変でした。でも、とても楽しかったです。なぜならば、一週間の練習期間に一日だけみんなどずつと遊びに行つたからです。私達は海に泳ぎに行きました。夜にバーベキューをして、その後、友達と小さな港の近くまで行つて、その芝生の上に寝ころがつて、満天の星を眺めました。その静かな時間の流水の中で、私は普段時間に追われあまり考えない事を考えていました。こんな広くこすごい宇宙を見ていると、自分とはともともとも小さな存在に思えてくる。でもよく考えてみると、私は私自身の体と心で色々な物事を見て感じて、考える事ができる力がある。だから、私自身もこの広い広い宇宙のようにすばらしい存在なんだな。そう思えてきて感動しました。

私の第二の発表会は沖縄市でした。この発表会のために、前よりももっと練習しました。

先輩達はその時私達に、「せんすの位置が高さもみんなご合わせる事も大事だけど、もっと大事なのは、みんなが心を一つに合わせる事だよ。そうしたるすばらしい踊りができるよ。」とよく言っ て聞かせました。本当のところ土・日も練習して、あまり自分の時間がとれなかつたので、時々、「今日は練習行きたくないな」と思った事もありました。でも、発表が終わつた後その努力がもくわぬ、とても満足でした。さらに親せきの人も見に来てくぬたので、喜びは大きくなりました。今では先輩の教えもよく分かるようになりました。

私は沖縄にいても幸せです。みなさんどうもありがとうございました。



沖繩、いつまでも心の中に

大城 パトリシア

私は平成五年度、沖繩県の県費留学生として、沖繩来る前に、ペルーでデザイン専門学校で広告デザイン勉強してました。そして日本語はもう二年間続けています。

日本語の勉強しながら日本へ行くことについてもあかされていました。でもいつ行くことができるか分かりませんでした。

ペルー沖繩県人会から沖繩に勉強をしに行くチャンスがあることを知ったので試験を受け、そのおかげで沖繩に行く夢がかないました。私はに、けい人の三世でおじいさんとおばあさんは沖繩の人でしたのとおじいさんたちの生まれた場所へ行ける機会をあたえられました。本当に心からうれしく思います。最初はぜんぜんしんじられませんでした。

外国で生活することははじめでしたから最初はとても大変でした、そしてここでの生

活になれることが出来るが、とても不安でした。

大学の授業がはじま。て、私の専門のコースをとりました。授業の内容、前に、もうやたことがありましたが先生の説明があまり分からなくて困りました。

いろいろなことをしゃべりたか、たけれどよく話すことができませんでした。その間ずっと、どうして沖縄に来たか、たのか自分の自身にいかけてみました、でもたんだん授

業で友たちができていろいろなことを手伝。てもらいました。

休みの時はいろいろな所へ遊びに行。て沖

縄の景色をたくさみることができました。

一番遊んだ所は渡嘉敷島で次は石垣島でした。その時見た沖縄の海にとてもびっくりしました。というのも私はこれまでこんなきれいな海の色を見たことがなか。たからです。ペルで沖縄に行。た人があ。るから、沖

縄の海の色はとてもすごか。たと聞か。れまし

た。最初は想像ができませんでした。沖縄は  
どこに行ってもいろいろな植物があり、とも  
すこいので、沖縄はきれいなな。と思いまし  
た。

夏休みにな。こ、他の留学生といっしょに  
本土へ遊びに行くチャンスに出会いました。  
沖縄より本土はこどもこんでいて、みんな  
時間のゆとりがなく、ぎりぎりであわただ  
しくみえました。でも道にはり、ばな建物が  
たくさん立。こて、景色もきれいでした。

最初より沖縄の生活にもたいぶなれて、言  
葉はまだむずかしいけれど生活はやさしくに  
な。こ大好です。

この一年間、いろいろな所に行。こ、いろ  
んな物を見てきました。世界各国の友たちも  
い、ばいできました。そして、沖縄のまたは  
日本の文化や習慣にふれながらたくさんこの  
とを学びました。

私にと。こ、すべてがすばらしい経験ばかり  
でした。沖縄に来ることができたチャンスな

こ  
れ  
か  
ら  
の  
人  
生  
で  
や  
く  
だ  
て  
て  
い  
き  
た  
い  
。

一年間の思い出

ペル | 松岡 マリサ

おじいちゃん、おばあちゃんは国頭村のしゅしゅんで64年前にペルへ行きました。私はペルに生まれてペルに三世代です。ペルではラ・ウニオンと言う日系小。中学校へがよいました。そしてカトリック大学ではプロダクトデザインの勉強をしました。

6才の時母といっしょに日本へ来ました。母は焼き物が大好きですから沖縄を回って色々な所の焼き物工場へ行ったのをおぼえています。

プロダクトデザインの途中で陶芸の2コースだけがありません。すくなくとも2年前大学の先生の家で陶芸の勉強を始めました。いつも日本の事を親友達から色々話を聞かされていました。6才の来た時、おいしいそばや、きれいな人形や、つぼなどしかおぼえていません。人から私はもう一回日本へ行って見たいと思っ

いました。そして日本の事をしるチャンスが来  
ました。

1993年の4月に沖縄県留学生として沖  
縄に来ました。さいしよの一週は親せきのあい  
さつ回りなしました。そして一人ですみ始め  
た時沖縄県立芸術大学のじやぎょうが始まりま  
した。日本語あまり話せなかつたから、さいし  
はふあんでした。でも先生、友達たち、親せ  
きなどのたすけ、または親切に日本語を教之  
てくれたりしたから、こしづつあんしんでき  
ました。

ペル一の大学では、ろくろ2台をみんなで  
使っていました。でも芸大では一人1台で使  
てるのをおどろきました。芸大はとてもおも  
しろかつたです。

夏休みは本土へ行きました。全国の県留学  
生はみんなであつまで静岡県、山梨県など回  
て、MOAびじゅつかんをけんがくし、ふじ山もは  
こねも行きましました。ふじさんはとてもすばら  
しかったです。あと友達とあいち県、みえ県